

平成29年1月24日（火）

第1回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成29年1月24日(火) 午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委員 豊島 秀範
委員 長谷川浩子 委員 足立 俊弘
委員 蒲田 知子
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
- | | | |
|----------------------------|------|------------------|
| 教育総務部長 | | 小島茂明 |
| 生涯学習部長 | | 小林信治 |
| 教育総務部次長兼総務課長 | | 増田謙二 |
| 生涯学習部次長兼生涯学習センター長兼生涯学習課長 | | 吉成正明 |
| 学校教育課長 | | 吉川廣一 |
| 文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 | | 鈴木 肇 |
| 指導課長 | 大島慎一 | 鳥の博物館長 斉藤安行 |
| 図書館長 | 今井政良 | 教育研究所長 水戸勝英 |
| 生涯学習課主幹兼公民館長 | | 少年センター長 羽場秀樹 |
| | 丸山正晃 | 文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫 |
| | | 教育総務課長補佐 森田康宏 |
6. 欠席事務局職員 な し

午後2時00分開会

○倉部教育長 ただいまから平成29年第1回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第18条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

○倉部教育長 本日の日程の前に、北嶋扶美子前委員の任期満了による退任に伴い、平成28年12月26日付で蒲田知子委員が就任されましたので御紹介いたします。蒲田委員、御挨拶をお願いしますでしょうか。

○蒲田委員 今、御紹介いただきました蒲田でございます。よろしく御紹介します。

私は昭和43年から我孫子に住んでいまして、幼稚園、小学校、中学校と我孫子の中で布佐小学校、布佐中学校で過ごしておりました。子供もつくし野で育てていましたので、我孫子の教育とかかわる機会が多かったといえ多かったですけれども、時代によって変わってきますし、子供が2人いましたが、上の子と下の子のときにはゆとりがどんどん広がっていくときで、随分変わっていったなと思いながら過ごしたりもしておりました。また、子供が産まれてから、鳥の博物館がちょうどできるころにそのあたりに住んでいましたので、建ち上がっていくところを見たりということをしていたのも懐かしく思ったりもしています。

私は、皆さんも御存じのとおり人権擁護委員をさせていただいているのですが、人権擁護委員をしながらも教育というものに触れる機会はとても多くて、子供たちへとなると教育委員会にも協力をいただきながら、先生方と形だけの

つき合いではなくて、本当に子供にとって何が大事なのだろうかということを先生方からお聞きしながらという活動をさせていただいてきました。そういったことも経験として生かしながら、教育は赤ちゃんから亡くなるまでという、とても幅の広いものになっていますが、その中で私が考えていけること、皆さんと工夫できることを探しながら、少しでも力になりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○倉部教育長 よろしく願いいたします。ありがとうございました。

続きまして、同じく平成28年12月26日付で豊島秀範委員が再任されたので御挨拶をお願いいたします。

○豊島委員 豊島秀範でございます。4年間の過ぎたというのは、あっという間でして、自分で驚いております。いろいろありがとうございました。

委員になってすぐ高校入試の問題が起こりまして、その中でいろいろなことを学ばせていただきました。中学校の成績の記入の仕方等、統一的なパソコンの導入がありました。それで全部済んだとは思っていないのですけれども、その後のことが余り聞かれていないので、注意はしていきたいと思っております。31年度で小中一貫教育が完成するということで、29年、30年、31年と3年間お世話になりますので、その間はしっかりと力を尽くしたいと思います。

昭和22年生まれ、団塊の世代ですので、この中で私は一番年上なのだと思います。自分が一番年上なのだとことを十分に自覚して、恥ずかしくないように微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

○倉部教育長 ありがとうございました。よろしく願いいたします。なお、豊島委員につきましては、同日付で教育長職務代理者として指名いたしましたので、よろしく願いいたします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第1、我孫子市教育委員会会議規則第31条の規定により、会議録署名委員を指名します。長谷川委員にお願いします。

諸 報 告

○倉部教育長 日程第2、諸報告を議題とします。事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項があればお願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間といたします。質疑があればこれを許します。

○長谷川委員 3ページの指導課をお願いします。1の「ALTミーティング」で、内容のほうに「市内史跡めぐり」とあります。毎月報告を受けているALTミーティングは、その下の2番のように、ここで行われる学習内容だったり、先月の報告にもあったタブレット端末の使い方だったと思うのですが、今回の市内史跡めぐりはALTの方々の御希望だったのか、もしくはふるさとカリキュラムに英語教育をつなげていくとか、そんな計画があるのか教えてください。

○大島指導課長 お答えします。この史跡めぐりについては、新しいALTが雇用された年に行っています。また、ふるさと教材も今ALTのほうでつくっていますので、そういったこともありまして、新しく来た方、それから興味のある、ここに参加したいというALTが集まって行われたものになります。

○豊島委員 今のALTの、下のところは12人なのですが、8人しか集まらないというのは、これはどうしてだったのでしょうか。

○大島指導課長 基本的には希望ということで、全員参加という形では今回はありませんでした。希望する者、希望するALTという形です。

○豊島委員 承知しました。

○豊島委員 4ページの2番目の「不審者情報」の件です。別のペーパーでも細く説明がありました。その中にもいろいろありましたが、ここで不審者情報は2件なのですけれども、つきまといと暴力行為。つきまといの問題ですけれども、暴力行為はちょっと黙っておけない問題かと思えますけれども、この不審者情報の件で、もう少しわかる範囲で、述べられる範囲で教えていただけますか。

○羽場少年センター長 お答えします。つきまといにつきましては湖北駅の近くで、あそこに茶畑という商店がありますけれども、そのところでとまっていた車から声をかけられたと。場所が非常に狭いところですので、声をかけた後に、子供たちが自転車で前に行った後をついてきたという形になっているのですが、ゆっくりついてくるしかないのです、これは何とも言えないのですが、一応そういう形で近隣の小学校に出しております。

それからもう1つの重大な暴力行為に関してですが、これは市の警察の生活安全課からもメールが流れた件になっているのですけれども、女子高校生が道を聞かれたので答えようとしたところ、背後から手を回されて口を塞がれそうになった。慌てて逃げたため、それ以上被害に遭わなかったということで、主任児童委員の方から学校のほうに報告がありまして、それからこちらのほうに報告があった。警察のほうからも通報により対応したという形の案件になります。以上です。

○豊島委員 つきまといのほうは、茶畑は私の住んでいる近くなのですけれども、どうしようもないということはないのですけれども、車がすれ違える道ですけれども。2番目の暴力行為のほうは、これは暴力と言えるかどうかはあれですけれども、手がかかったわけですよ。その後の解決というか、誰だというか、そういうことは全然わからないのですか。犯人とっていいかどうかわかりませんが。

○羽場少年センター長 警察のほうで対応はしたのですけれども、加害者については特に確定はしていないという形だそうです。

○豊島委員 そうですか。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかに事務報告についていかがでしょうか。

○豊島委員 6ページの「教育研究所における相談の概要」のところです。

毎回、本当に細かなデータを出していただいて、我々はそれでいろいろなことがわかるようになっております。助かります。その中で、今月の稼働状況のaの「相談活動」の中でも、来所相談が187件、前月は173件。前年度と比較しても同じようなものですが、こういうふうに施設に相談をすることができるというのは非常にいいなと思っています。その状況を了解した上で、さらに上の1番に戻りまして「③子どもの性格や行動に関すること」というのが、これはどうしても多いのですけれども、今文科省もそうですが、こういう支援が必要な児童・生徒に対してはちゃんとやれというような状況にはなっているわけです。そういうことを考え合わせて、こういう解決方法というのはなかなかありませんけれども、ずっと携わってこられている研究所の責任のある方として、何かこういう方法があったらいいのではないかというアドバイスみたいな、そういうものはありませんでしょうか。

○水戸教育研究所長 委員がおっしゃるとおり、今文科省のほうでも、こうした発達障害の子供たちの問題を非常に重く受けとめている。幸い我孫子市では、近隣の市と比較して市内の特別支援学級の数も大変多いという状況です。残念ながら打ち出の小づちは私どもまだ見出せていなくて、これをすれば向上するよというものは本当に子供によって千差万別です。また、子供たちが学校の中で学習活動や友達との交流や、学校生活がうまくいくことを支えるということを中心にして、私どもは相談活動を行っているということ。それから、御家庭の中で親御さんとの関係、ある意味親御さんもお子さんのことを丁寧に育てて

いただくためのアドバイス、親御さんにとっては来所されて相談いただくということと、それから学校に対して、子供の様子を見せていただいた上で先生方にアドバイスをするという。この2本立てで研究所は進めているところで

す。

学校の先生方も非常に戸惑いながら、そういった子供たちや保護者の方々に丁寧に対応してくれている。そこに研究所として、保護者に対して、それから学校に対して、丁寧にアドバイスをしていくことを積み重ねていくということしか、今現在の私どもの解決策というのは見出せていませんし、多分ないのだろうと思います。これまでもアドバイザー派遣事業という形で、学校に対しては、この日に、この学校にアドバイザーとして行きましたよというふうな御報告をさせていただいておりますが、今後もその両輪を地道に重ねていきたいというふうに考えております。

○豊島委員 ありがとうございます。そのとおりだと思うのですが、何かしら突破口を、そう簡単ではないということは、本当に今のお話をずっと伺っている私としては身にしみているのですけれども、このままではやはりいかんだろうというふうに、どこかそういう思いはあるのです。

勤務校でも支援学級を教えることのできる資格を取れる教員の養成をスタートとしているのですけれども、そういう先生方というのはもっと必要になるだろうということと、学校を回らせてもらっていて、情緒のクラスというのはどんどんふえていく。8名以上になれば、またふえる。そうしたら手が回らない。けれども、何とかしなければいけない。それを見せていただいて、お話を伺っていて、何か心が締めつけられるのですけれども、ではどうすればいいんだということなのですけれども。我孫子は今、市長さんも、教育長さんも、皆さんもそうですけれども、この教育委員会の活動というのはすばらしいと思うのですよね。私はそう思います。私はほかの地域のことを全部知っているわけで

はないですけれども、すばらしい。そういう中で何かやっていけるのではないかなと思っているのです。その1つが、そういう特別支援の先生方を何とかしてふやすというか、余裕を持たせるというか、そういうふうなことをしていかないといけないのかなと思っているのですけれども。そんなことを前に申し上げたのですけれども、「そう簡単にふやせないよ」と言われれば、「はい、そうですか」と言うしかないけれども、我孫子の教育を近隣のあれよりもよくするためには、その辺に1つはあるのではないかなと思うのですけれども。これは祈りみたいなものなのですけれども。

○倉部教育長 豊島委員の切実なる思いは多分教育委員の皆さん、私も含めて感じているところだと思います。この問題については何回もその都度出されて、なかなか解決策が見出せないというところだと思います。おっしゃられたとおり教員の資格の問題、それから家庭と学校をつなぐ、そのような教育環境をどういうふうに整備していくかというのはなかなか難しい問題ですので、引き続き教育委員会として、教育委員の皆様のをかりながら同じように思いを持ってやっていくしかないと思います。

ただ、毎回出ますように、人的な増員要件というのは、なかなか1市だけではできない状況にありますので、そういうものを県へある程度要望しつつ、あとは市の中で、どれだけそれを補うことができるのかというのを引き続き検討していきたいなと思っています。

最近、市長のほうにもお願いしています特別支援学級に対してのICT支援とか、一人一人に寄り添える環境をつくっていくというのが一番大事だと思っています。残念ながら、独自ではまだ配置できていませんスクールソーシャルワーカーとか、県の配置の人数に限られている。そういう中で、いかに現場として、そういうものの対応をとっていくかというのが大事だと思っていますので、残念ながら解決策はすぐには出ませんが、引き続き皆さんと一緒に

考えていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○蒲田委員 24ページの鳥の博物館ですが、3番で空調設備更新工事をして
いると書いてあります。実際に私も通ったときに、工事のために物を出し入れ
するところのシャッターが長い時間あいているのを見たのですが、通常は虫が
入らないように、花粉が入らないようにということで、出入りのときにドアも
早く閉めるというか、とにかくそんなものが入らないようにしていたところが、
工事のために長い時間あけざるを得ない状況だったと思っているのですが、そ
うなると、とてもきれいに管理されている剥製のほうに害がないのかなど。ち
よっとわからないのですけれども、館内燻蒸をすとか、そういったことは考
えてありますということがあつたのでしたら、教えていただきたいと思つた。

○斉藤鳥の博物館長 御心配どうもありがとうございます。確かにおっしゃる
とおり、博物館をあけ放しにしておくと、いろいろな食害虫が入つてよくない
ということはあるのですけれども。それは工事の初めから心配してつた。
なお、時期的に冬であるということで、夏、秋、春のようにたくさん入らない
という、そこは少し安心なところなのです。

また、標本を移す前に収蔵庫をしっかりと見て、食害虫がないかどうかチェ
ックする。最近は燻蒸に関しても、特に強い薬を入れて一挙に殺すというより
も、それは人体にも害があるということで、学芸員がしょっちゅう監視してと
いうか、観察して、そういう虫が出たときに対応するIPMというやり方なの
ですけれども、そういうやり方が全国の博物館で行われておつたして、鳥の博
物館でも特によく観察するということで、もし何かそういう虫が出たら対応す
るということで、対処していきたいという計画です。当然5月、6月にまた全
館燻蒸もありますので、様子を見ながら対応していきたいと思つた。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。

○蒲田委員 ありがとうございます。本当に鳥の博物館の剥製はきれいなので、

よその博物館に行っても、私は比べて見ているのですね。比べて見ても、本当に我孫子のものはきちんと管理をされているなというふうに見ておりますので、お聞きしました。ありがとうございます。

○倉部教育長 それに関連してなのですけども、例のあれはもう見られなくなったのですか。逆に工事中だからこそ、剥製が一堂に会している部屋があるのです。先日、部長と一緒に拝見しに行きました。壮観でした。ふだんはバックヤードに隠されていて見られない剥製が、まさしくずらりと並んでいる。いわゆる鳥の博物館が持っているもともとの、そういうものだというのが今だからこそ見えるという機会がありましたので、ああいうことを見るのもなかなかいい機会だなというふうに思っています。まだあれは続いていますでしょうか。

○斉藤鳥の博物館長 2月1日からのオープンということで、移動した標本を1階の収蔵庫に運んでいる最中です。そういう一堂に見られる機会というのがないので、博物館ボランティアの市民スタッフにお声がけして、何人かには見ていただきました。展示のリニューアルのときにも、そういうイメージが役立ってくると思うので、今後何とか生かしていきたいと思います。

○倉部教育長 ありがとうございます。行く行くはバックヤード等の見学等も委員さんにはできるかと思っておりますので、そのときに御確認いただければと思います。

○豊島委員 7ページの生涯学習課のところの成人式の件です。行事がぶつかってしまって、午後のほうしか見られなかったのですけれども、ここ4年ほど拝見してというか、参加していて、我孫子の成人式というのは彼ら自身を取り仕切っているということもあって、非常にいいですね。本当にすばらしい。ほかのどことは言わないけれども、恥ずかしいところがありますよね。我孫子はすごいなと思うのです。

その上でなのですけれども、ずっと見ていて、ややマンネリズムという。あっ、終わったんだという、何かちょっと寂しいというか、各小学校などの先生方のあれが出ていて、それはそれでいいし、先生方も参加してくれているというのは抜群にいいと思うのですけれども。それはそれとして、いい意味での盛り上がり少し欠けてきているかなという気がしているのです。それは私だけの感想かと思えますけれども、あの形がとられてから何年たつのかわかりませんが、彼女、彼らがやっているわけですから余計なことは言えないのですけれども、成人式というものを取り仕切っている生涯学習課のほうで、今までの流れを見て何か感想等がありましたら、あるいは問題点がなければそれでいいですけれども、ありましたらおっしゃっていただければと思います。

○吉成生涯学習課長 御意見ありがとうございます。私も今回初めての経験で、新成人と一緒に作り上げてきたのですけれども、やはり自分も生で初めて見て、昔の卒業アルバムの写真ですとか、あとは恩師の先生方のメッセージということで、そこで終わってしまっている。最初に主催者の挨拶、来賓から祝辞というものはいただいているのですけれども、それとは別に新成人に対するメッセージとして、例えばビデオメッセージの最後に、例えば我孫子にゆかりのある方ですとか、そういった方のメッセージをいただくとか、そういった工夫とかが必要なのかなというのは、ちょっと感じた次第です。ですので、そういったものもちょっと取り入れながら、次回はさらに工夫していきたくと思っています。

○豊島委員 よかったのですよ。悪いなんて言っているわけではないのですけれども。1つのパターンになってしまっているという、そのパターンさえやっておけばいいという、そういう形に今なっているのかなというのが、ちょっと見えたものですから。

○倉部教育長 答えはありますか。

○吉成生涯学習課長 毎年毎年見られている方というのは、確かに毎年同じだなというふうに思ってしまうのかとは思いますが、ただ新成人として参加する方はそれを唯一、そこ1回限りなので、その方たちが来てよかったと思える成人式であれば、見ているほうは毎年同じだなと思っても、やむを得ないのかなとも思います。新成人をお祝いして、新成人に大人になったんだという自覚を持ってもらうということで、そこの目的がきちんと果たせれば、できるだけいろいろ工夫はしていきたいと思っていますけれども、それはそれでいいのかなというふうにも思いますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

○豊島委員 8ページの「視聴覚ライブラリー」のところですが、この時期にこうやって出していただけるのですけれども、例えば一番上の地域交流教室利用状況というのは、これはアイデアがよかったですね。その次の次の16ミリのフィルムとかビデオもそうなのですけれども、これらは本当に使用数が少ないのですが、ただ少ないからといって取りやめということではないです。ないのですが、極端に少なくなりました。16ミリは前からそうなのですけれども、少なくなりましたということに対して、今後とも貸し出しみたいなものをこうやって続けていくというほうがいいのかという、そこをどうかなと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

○吉成生涯学習課長 確かに10月、11月、12月という3カ月で見ると、ちょっと寂しい数字になってしまっているのですけれども。基本的には学童保育ですとか保育園ですとか、そういったところを中心に、夏休みの機会、7月と8月というのは、かなり現在でも借りていただいて活用されています。ただ、こういった10月、11月、12月にもっと利用できないかというところの工夫をしていかなくはいけないとは思っていて、今年度も目録をつくったり、チラシをつくったりしてPRに努めてきましたので、またそこを続けて頑張っ

ていきたいと思っています。

○豊島委員 ありがとうございます。何月がどのくらいだったか全部は覚えていないのですけれども、16ミリなんかは年間通してかなり少ないというふうなことはイメージとしてはありますものですから。減らす必要はないのですけれども、仮に少なくても、こういう意味でこれは必要なのだというふうなことは必要だと思うのですよね。ですから、その辺のことをちょっと伺いたかったのでお聞きしたのですけれども。

○長谷川委員 同じところなのですけれども、確かに16ミリだったら、取り扱いかそういう講習が必要だったりとかあるかと思うので、なかなか貸し出しがふえるとはいかないと思うのですけれども。一番下のDVDソフトで、一般の方で16本、前年度比で2000.0%と出ているかと思うのですけれども、この一般の方で16本をお借りしたのは1人の方なのでしょうか。

○吉成生涯学習課長 その一般の方という方がどのような方だったのか、ちょっと私は把握していないのですけれども。基本的には一般というのは大体自治会ですとか、あとは市民活動団体ですとか、そういった方々が借りていくということでは承知しているのですけれども。その16件の内訳はちょっと申しわけございませんが、今把握していませんので後ほど。

○倉部教育長 後ほど調べて御報告いただけますか。よろしくをお願いします。

○丸山公民館長 今の部分で、公民館担当としましても、生涯学習の企画調整のほうからも、今度公民館の講座のほうでも、こういったライブラリーがあるんだということで、目録も紹介していこうということで、来年度に向けてはその辺工夫を今しておりますので、利用率向上については課を挙げて協力していこうというふうに思っております。

○倉部教育長 ありがとうございます。積極的に利用について仕掛けるということですので、よろしくをお願いします。

○豊島委員 20ページの共催事業のところですか。前にも申し上げたのですが、湖北郷土資料室を活用して、湖北地区の公民館で講演会と展示会、これは両方合わせて行われたということですが、こういうふうな地元の資料室なんかを積極的に生かして活動していくというのはいいなと思います。ぜひそうやってもらいたいと思うのですが、この湖北郷土資料室を使っての共催事業というのは、12月18日、今回1回だけの単発のものなのでしょうか。毎年これに近いようなものは何か考えていこうとしているのでしょうか。ちょっとそこを伺いたい。

○鈴木文化・スポーツ課長 湖北の郷土資料室は、湖北地区で行った発掘調査で出土した遺物等を展示しておりますが、その中央部分にスペースがありまして、今委員がおっしゃった事業は、市史研究センターと共催でそのスペースを活用して今回初めて行いました。これが毎年続くかどうか今ははっきり言えないのですが、あいているスペースは、例えば新たに発掘等があった場合のミニ企画展だとか、市民団体との共催事業に活用は考えていきたいと思っています。

○豊島委員 ありがとうございます。ぜひそういうふうにしてもらいたいです。湖北のあたりだけではないのですが、本当に古いのですよね。地層が古いとか、歴史が古いとか。そういうことを余り知られていないのかもしれない。教育活動とか、前にも触れてはいたのですが、何かそういう活動を通して、せつかくあそこをつくったのですから、湖北の郷土資料室というのを定期的に活用していくような方向で何か考えたいと思うのですが、ぜひまた考えていただけませんか。お願いしたいと思います。

○倉部教育長 要望ということでよろしいですか。

これに関連して、今回の『湖北村誌』、いわゆる寄贈を受けたということでの企画でもあったと思いますので、その辺の実施した経緯について、もし説明ができれば、それはわかりませんか。

私もこの会に参加して御挨拶させていただいたのですけれども、子孫の方から、たまたまお持ちになっていた村誌をやるに当たっての、いわゆる校閲の経過とか、そういうものを記した本をいただきました。それがきっかけとなって我孫子市史研究センターの方たちとかが、ぜひここでやりたいという強い思いの中で開催されました。我孫子の中にいろいろな郷土資料というものがたくさんありますし、その資料をどうするかという課題もいただいているのですけれども、そういうものを活用しながら、こういう場所を工夫しながら使っていきたいというのが担当の考えだと聞いていますので、これからもそういうような企画展を出せるように担当と協議していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

○豊島委員 ありがとうございます。今、教育長さんからお話を伺ってよかったです。我孫子市史とかそういうのをつくる、私もやっているのですけれども、それをつくって終わったら、その後、その資料の保管とか資料の活用とかで、おおよそがお手上げになるのですよ。その資料の保管室をつくるのが、人的にも、場所的にも大変なのですよね。今の例えば湖北に関する事とか、何とかというの、あそこの中央スペースがあるということですので、本当にそういう郷土の資料室みたいなものを保管していくというのは手ですよね。我孫子市の駅前のところの本屋さんに、郷土史を置いていたコーナーがあったのです。今それはなくなりました。あの本屋さんに行って「我孫子市の郷土史のコーナーはどこに行ったのですか」と聞いたら、「なくしました」と。それぐらい、ある意味では売れないのです。売れないけれども、それをなくしてしまうと大変なことになるのです。ですから、そういうものを保管するというのも資料室の一つの役目ではないかなと思っています。今お話を伺ったので、それに乗っかってもらいました。以上です。

○倉部教育長 今のことに関連して、今井図書館長。

○今井図書館長 大切な郷土資料ということで、私ども図書館におきましては郷土資料コーナーというものを設けまして、市内のそういった資料を大切に保管する、それから皆様に閲覧していただく。物によりましては貸し出しも可能なものもあります、市においては図書館が寄贈を受けたり購入したりとかいった形で収集して、郷土資料というコーナーで皆様にお示ししているというところでございます。

今後ともそういった大事な資料、新しいものだけでなく、古書についても発見され次第、図書館で保管はできる体制を整えております。

○倉部教育長 最近工夫していただいている白樺文学館とか杉村楚人冠記念館とのコラボレーションについても、図書館の立場から説明していただけますか。

○今井図書館長 今いろいろと共催事業ということで、白樺文学館、杉村楚人冠記念館等々行っているのですが、ここ最近の話でいいますと、白樺文学館においては、かなりの書物が寄贈されたり保管されたりしている、整理の整っていないものがございます。そういったものを、私どもの職員が出向きまして図書の整理を実施いたしまして、間もなく完了するのですけれども、今、白樺文学館に置いてくるもの、図書館で活用するものの仕分けをしているところでございます。

○倉部教育長 ありがとうございます。それプラスいろいろな講演会等で図書館と文化・スポーツ課が一緒になって、その中で図書を紹介したり、あるいは「その図書は図書館にあります」というような形で、新たなソフト展開を今頑張らせていただいています。これが1つの多分我孫子の、そういうような行政の中の売りになっていくのではないかなと思っています。その都度機会があれば紹介していただければと思いますので、よろしくお願いします。

○小林生涯学習部長 補足をさせていただきたいと思います。我孫子の郷土資料、その取り扱いというところなのですけれども、先ほど豊島委員からありま

した、本屋さんでなかなか売れないから、それはしまってしまったというようなお話もありましたけれども、郷土資料館はどこを見ても、最初にはたくさんの方がいらっしゃるのですけれども、その後が続かないというようなところがあります。我孫子の場合は今そういう1カ所に集中した拠点となる資料館というのはないのですけれども、逆にそれぞれの地域に、例えば布佐であれば今整備しています井上邸があります。それから湖北であれば、今回の湖北郷土資料室があります。あえてあそこは我孫子市の資料室ではなくて、「湖北郷土資料室」という名称にしたというのもあるのですけれども。例えば我孫子地区であれば白樺文学館があつて、杉村楚人冠記念館があつて、旧村川邸がある。地域にそれぞれ、小さいながらもそういうところがありますので、できるだけ地域に密着した郷土資料を、そこへ展示をしていく。やはり地域の方々にまずは見ていただいて、理解をしていただく。その中で学校とかも含めて活用していただくというところから始めたほうが、長くいろいろな企画もできますし、地域に根差した展示もできると考えています。また、図書館との連携では、今回、杉村楚人冠の講座をやっているのですけれども、その中で図書館で収蔵している杉村楚人冠全集の中で、3つぐらいにランク分けをして、初心者が読めるもの、ある程度知識があるというか学んだ人が読めるもの、それから専門的なもの、そういうものを紹介しながら講座を開いていって、杉村楚人冠、また記念館に興味を持っていただく、また知る、学ぶというところにつないでいただく。どちらかというとなら図書館は貸し出しというところが今までは中心でしたが、貸し出しだけではなくて、よく福祉的のほうで言われるのですが、アウトリーチという、こちらから働きかけるというようなことをしながら、市民の知るというようなところをこれからどんどん支援していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○倉部教育長　そういう取り組みを積極的にやっておりますので、よろしくお

願います。

○豊島委員 今のはいいですね。図書館のほうで、どこかで全体が把握できているというのがいいのですよね。図書館にリサーチして、それはどこにあるということはわかるという。それは切れてしまうと探せない。それがつながっているというのがいいなと思います。賛成です。

○倉部教育長 個人的な感想になってしまうかもしれませんが、できればそれを学校の図書室まで一緒にやって、いわゆる学校はまだシステムが独立しておりますので、図書室とつながっていない。それをやっている市町村は結構あるわけですが、今後はそういうことも必要かなというふうに思っていますので、教育委員会としてそういうようなものも今後進めていきたいなと思っておりますので、御理解と御協力をいただきたいと思えます。0

○蒲田委員 25ページ、また鳥の博物館なのですけれども、12月は閉館中だったので、入館料が入っているというのは、アビシルベ販売分3館共通券の入場料収入が入っているということになるのでしょうか。

○斉藤鳥の博物館長 委員おっしゃるとおり、アビシルベでの売り上げです。

○蒲田委員 3館で分けて。

○斉藤鳥の博物館長 3券共通券の販売になります。

○長谷川委員 23ページをお願いします。28年度のところで、11月が白樺文学館も杉村楚人冠記念館も数字が結構伸びているように思うのですけれども、この月は特別に何かふえる要因とかあったのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 この月は船橋市の市民の会で「タウンウォッチング」という会がありまして、たまたま11月に白樺文学館、杉村楚人冠記念館の両方に、複数回にわたって来館していただいた関係で人数がふえています。

○豊島委員 今のところは私も気になっていたのですけれども。船橋市からのということだけでも、これは相当のふえ率ですね。こんなに来られたので

すか。

○鈴木文化・スポーツ課長 人数にしますと358人の方が来られました。伸び率はこれが原因で上がっているのですが、白樺文学館での企画展、杉村楚人冠記念館では夏目漱石と楚人冠の企画展をやり、これの影響もあったと思われます。358人を除いても、白樺文学館では前年度比121%、杉村楚人冠記念館では201%となっています。

○豊島委員 すごくうれしいです。皆さんの努力がこういう数字になってあらわれている。そういうことがあったので、船橋市からも358名の方が来られたと思うのですよ。これはいい傾向だなというふうに思いますので、今までの努力をさらに伸ばしていくというふうにしていてもらいたいです。ありがとうございます。

○蒲田委員 29ページの図書館なのですけれども、一番上の5番の「入館者数（アビスタ本館のみ）」ですが、10%減っていると書いてあるのですけれども、理由はどんなところでしょうか。

○今井図書館長 昨年の同時期に比べて10%なのですけれども、特にこれだという理由はないのですが、例年少しずつなのですけれども減る傾向にあるのが今の図書館の現状です。ほかの表をごらんになっていただくとわかると思うのですけれども、本の貸し出しについても減っている状況ではあります。ただ、先ほどの郷土資料のお話ではないのですけれども、貸し出しだけが全てではなくて、そこで閲覧していただく方たちもいらっしゃるということですので、これからはどんどん共催事業をふやしまして、そういった形での郷土資料への興味もふやすこともありますし、またお子様たちに対しての読み聞かせ事業等をふやすことによって児童書の貸し出しがふえる、来館者もふえるといったようなことを努力していきたいというふうに考えております。

○蒲田委員 入館者数が減ったというところで、見ていた感じでは子供たちが

減ったなどか、例えば子供の数は減っているのですけれども、例えば何かそんなことを見てとれるということはあるのでしょうか。

子供の数がどんどん減っているので、来ている子供の数が減っているとか、そういう感じはありますか。

○今井図書館長 数字ではすぐ来館者の子供の数というのは出てこないのですが、私も中を見ている状況では、児童書コーナーの子供たちの数というのは減っている傾向にあるかなというふうには思います。本館、図書館の中での子供たちの数は減っているのが現状ですけれども、学校とか、保育園とか、そういったところに出向いての事業を進めていくことを今少しずつですけれども始めているところですので、今後はそういったものも充実させていけたらなというふうに考えます。

○蒲田委員 ありがとうございます。

○豊島委員 19ページのところの文化・スポーツ課の1番の「めるへん文庫原画展」なのですけれども、これは200人に近い人数の入場者があってよかったなと思っています。この場では、めるへん文庫は販売していたのですか。私は参加していなかったのですけれども。めるへん文庫の販売というのは、こういう場ではやっていない。あれは売れなかったのですか、もう冊数がないのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 今回のめるへん文庫の原画展で、過去に作成しためるへん文庫の販売はしておりません。

○豊島委員 それは冊数がないとか、あるいは予定外とか、どういう理由なのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 冊数はまだあるのですけれども、市民活動支援課と協議の中で、市民プラザのギャラリーがあいているよということで、急遽決まりました原画展です。そういった理由もありまして、準備等々でそこまで間

に合わなかったということです。

○豊島委員 それは現実のことだと思うので仕方がないと思いますけれども、前から何とかめるへん文庫の資金をとということで、過去4年間いた中でいろいろあったものですから、少しでも売ればいいなと単純に思いますので、こういう機会で、これだけ人数がいらっしゃるときに、めるへん文庫がどうしたのかなと単純に思ったものですから。何かあったときには、ストックする以外にまだ本があるのであれば、1冊でも2冊でも多く売ればいいなと思うのですけれども、今後お願いします。

○倉部教育長 今後については、そういうような検討もお願いしたいという御意見ですので、よろしくお願いします。

○豊島委員 順番が変わって済みません。21ページの28年度の第3四半期の資料のところです。体育館の施設とか有料公園施設とか、ゆうゆう公園とか、そういうところを見ていて、すごく伸びているところと減っているところがあったりして、ちょっと気になっておりました。

私はこのすぐ近くに住んでいるものですから、たびたびここに行くのですが、この間ゆうゆう公園のバーベキューとかいろいろできるあちらのほうに行って、利根川のほうに近づいていったら、釣りみたいなものというのですか、池みたいなものをつくってあって、おりて行ってだんだんにコンクリートになっていて座る部分はあるのですけれども、非常に荒れていて、「どうしたの、これ」という感じがするのですね。その近くまでサイクリングロードがあって自転車で行けるのですけれども、利根川に面したところが——利根川ではないのですよ、その内側なのですけれども。すごく荒れていて、ちょっと違和感を持ったのですよね。ここで言ったら、ゆうゆう公園の野球場でもサッカー場でもなくて、何と言ったらいいんだろう、これは。

○倉部教育長 公園施設の部分ではないかなと思うのですけれども。

○豊島委員 有料公園の施設ということになるのですか。

○倉部教育長 豊島委員、その部分ですと、ちょっと教育委員会の所管ではないので。

○豊島委員 違うのですか。

○倉部教育長 公園緑地課の部分になろうかと思えます。その辺については御意見があったということで、小林部長のほうからでも、担当のほうに投げかけてということでよろしいでしょうか。

○豊島委員 わかりました。公園緑地課ですね。

○倉部教育長 はい。

○豊島委員 ちょっとあそこは荒れていますので、違和感がありました。

○倉部教育長 事務報告はほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それではないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に、事務進行予定について質疑があればお願いします。

○豊島委員 2ページのところ、学校教育課の5番目「事務職員研修会」のところです。今、教員が忙しいというのはわかるのですけれども、共同事務処理についてとか、テーマ別班別協議というのが内容のところにあるのですけれども、事務職員の方々も忙しくなっていると思うのですよね。共同事務処理についてとか、テーマ別班別協議という内容になっているのですが、これはこれからのあれですから私は十分知らないのを教えてもらいたいのですけれども、今の学校の事務の方々の作業量、仕事量の範囲というのも、かなり忙しい状況になっているというふうに判断していいのですか。

○吉川学校教育課長 業務量は以前と比べそんなに増えてはいないと思います。また、あわせて事務職員の業務についてある程度項目立てをして、学校の中で

どんな仕事を示し、この事業の共同実施の目的にある学校の運営企画に事務職員もどんどん参画してくださいというような意味も込めて行っております。それぞれ事務職員は19校に配置されておりますけれども、地区ごとにテーマを決めて業務内容を深めることで、別なテーマのところと深めた部分を共有しながら、それぞれが業務に生かすというようなこと。また、近隣の学校で地区ごとに補っていくなど、連携協力をすることで、多忙感を少なくしていきましようというようなことで行っているところです。

○豊島委員 ありがとうございます。教員と事務の方というのは車の両輪ですから、事務が動かなくなれば全然やれるものではないということは私らは身にしみているのですけれども、時代とともにいろいろなものが入っていくというのは事実でしょうから、そういう中で事務の方々に対しても十分な配慮をしていかなければいけないというふうに思っているものですから伺いました。

今後とも、そこのところをよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

○長谷川委員 16ページの文化・スポーツ課の2番なのですけれども、この作品展の内容のところ「中里薬師堂薬師三尊像と十二神将のうちの3体を展示する。」というふうにあります。去年、同じような作品展を見に行かせていただいたのですけれども、昨年の課題として28年から31年度にこの十二神将のほうの修理をしたいのだというお話を伺ったのですが、3体展示されるということは、修理のほうも進んでいるというふうに受けとめていいのでしょうか。

○鈴木文化・スポーツ課長 27年度に薬師三尊像が修理を終わりました。28年度に十二神将のうち三尊像が終わりまして、それを展示するというものです。

○豊島委員 5ページの指導課のところ。4番の「平成28年度我孫子市

児童・生徒・教職員教育奨励賞授与式」というのは、これから行われるわけですが、こういうふうなのはいいなと思っていて、ぜひ続けていく必要があると思うのです。

その参加対象者ですが、市内各小中学校の教育奨励賞受賞対象も参加するのは当然ですが、これは数とかその範囲とかちょっとわからないのですが、おおよそどういうふうな人数が、その奨励賞の対象となったのでしょうか。わかる範囲で教えていただければと思います。

○大島指導課長 対象は市内の小学生、中学生になります。今年度の奨励賞については、対象となる児童・生徒が延べ37名おります。うち35名はスポーツ関係、部活動、白山中を筆頭に駅伝等の活躍。そして文化のほうでは2名、こちらは小学生ですが、県のほうですばらしい作品を残して、入賞者ということで表彰される予定になっております。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。スポーツのほうは圧倒的に多いということは今わかりましたけれども、これは一定の基準みたいなものはあるのですか。

○大島指導課長 あります。基準がありまして、スポーツでいえば県大会の入賞レベルというふうになります。失礼しました。県大会の1位レベルになります。

○豊島委員 文化のほうは何かありますか。

○大島指導課長 文化のほうにつきましても、例えば県の1位相当の入賞というのが基準となっております。

○豊島委員 ありがとうございます。スポーツの35名ですが、35名が県大会で1位相当というふうにご考えてよろしいのですか。

○大島指導課長 県1位相当、さらにその上位の関東大会あるいは全国大会といった条件もあるのですが、こちらの35名につきましては県1位相当あるいは関東大会で入賞、全国大会で入賞といった生徒が入っております。

○豊島委員 ありがとうございます。かなりの活躍ということがわかりますね。了解です。

○足立委員 4ページの3番の「学校図書館市民図書館連絡会議」に関連してお尋ねしたいのですが、小中学校図書館担当者19名ということは各校に1名担当の職員がいると思うのですが、この方たちの資格とか、どういった形で雇用されているとか、学校図書館をうまく活用していたり、学習の中で生かしたりとか、あるいは子供に読書の習慣を身につけさせるためには学校図書館の役割は非常に大きいと思うのですが、学校図書館の担当者のスキルアップのために、こういう連絡会議というのがあるのかなと想像してみたのですが、こういった連携する機会というのは年にどのくらい用意されているのかというのは、概要のような形で構わないのですが、教えていただきたいのですが。

○大島指導課長 まず担当者につきましては、各学校で司書教諭の免許を持っている教諭になります。開催については、年に2回開催しております。スキルアップという点については、こちらの会議もそうなのですが、我孫子教育研究会という研究会の中で図書部会というのも開いております。そちらの研修会も活用しながら教諭のスキルアップを図っております。

○足立委員 ありがとうございます。

○蒲田委員 同じページの2番なのですが、「平成28年度第3回我孫子市学校警察連絡協議会及び小中高特別支援学校 生徒指導主任研修会」があるということだと思うのですが、以前はこの参加対象者の中に少年指導員が入っていたときもあったかと思いますが、今回は入っていないようなのですが、しばらく入っていないのでしょうか。

○羽場少年センター長 前回の我孫子市学校警察連絡協議会につきましては、内容がインターネット関係の講演ということだったので指導員も入ったのです

けれども、今回につきましては実際のコンピューターを使つての対象になりまして、少年指導員までは網羅できないこともありますので、今回につきましては入っておりませんが、講演内容等によって入っているという形になります。

○蒲田委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それではないものと認めます。事務進行予定に対する質疑を打ち切ります。

次に、教育事業全般について、質疑または御意見があればお願いします。

○豊島委員 少年センターだよりの「きずな」を送付していただきました。145号、ことしの1月11日付のものです。その中に「日本の素晴らしさを再発見してみませんか？」というところで、「酉」という字のこととか、あるいは外国人の日本でのこととか、いろいろなことを記してくれています。おもしろかったです。

その一番目の枠の中の最後のほうに、そういうふうなことを踏まえて「世界中の人が「訪れたい」と感じてもらえる国に、また、我孫子市民が「この街に住んで良かった」と感じてもらえる街にしたい」ということですね。この流れからすると、物を置いてもすぐに戻ってくるとか、財布を落としてもそのまま戻ってくるとか、そういう安全面をというふうなことを強調しているものだと思いますけれども、「この街に住んで良かった」というふうに心から感じてもらえる街にしていくために、皆さんの御協力をお願いしたいということなのですね。ただ、この場合の「この街に住んで良かった」と心から感じてもらえる街にするために」というのは、この「きずな」の性格からして、安全な日本という、安全な我孫子というふうな、そういう意味合いで考えていいのですか。この「きずな」の原稿を書いた人は誰かわかりませんが、この「き

ずな」の流れは。

○羽場少年センター長 そのとおりでございます。少年指導員の方たちの安全の見守りとか、そういうことがありまして成り立っているというところがありまして、そこからの文章となりますが、至らない点で趣旨が伝わってなくて申しわけございません。そういうことでございます。

○豊島委員 このことを読んだものですから、最初につきまといだとか何とかというところも質問させてもらいましたけれども、それをするためには、いろいろなそういったことをなくしていくしかないということなのだと思いますけれども。

もう一つ、その下のところにある「ルール化することで、その必要性について考えなくなってしまう?」、これはすごく大きいことなのですよ。何かやった、それでルール化して、いいよねというふうにするのですけれども、その結果、それでもうできちゃったという、入試のこともそうなのですから、そういうことがあるかと思うのです。ここの下のところで言っていることは、「メディアのない世界で子どもを育てることは実質的に不可能である」と。実際にそうですね。本当にそうです。スマホにしても何にしても、ルールづくりをするのだということなのですから。ルールがなぜ必要か、ルールは終わりではなくて、その運用に問題があるのだと言っていて、最後にこのルールをつくるということの重要性を言っているのだけれども、タイトルが「ルール化することで、その必要性について考えなくなってしまう?」という、そうすると今後IPだとかスマホだとか、そういうもののことについてのルールを考えていって、つくってしまうというのはだめなのかという、この文章のタイトルと内容がそぐわないなという感じがするのですけれども、そういうことではないのですよね。ルール化してしまうと考えなくなってしまうからという、ルールをつくっただけで満足してしまいがちな風潮に対して警鐘を鳴らすというこ

となのであって、ルールをつくってしまうと内容を考えなくなってしまうという
ことを言おうとしているわけではない。何かタイトルがおかしいなというふ
うに思ったものですから、いかがでしょうか。

○羽場少年センター長 タイトルは、どういう内容だろうと思ってもらう形で
つけているので、もしかすると、反対の意味的な部分で書いてしまった部分
あって、御指摘のとおり今後気をつけていきたいと思います。済みません。

○足立委員 豊島委員が御指摘になったことは、確かに一瞬、うん？ という
ようなタイトルかとは思うのですけれども、私もこれはそうだよなと思って、
今読ましていただいたのですが。例えばマニュアルなども整備した途端に形骸
化が始まるというのですか。なぜそのマニュアルをつくったのかが議論されな
くなってしまふ。少し前になりますけれども、堀江さんという方がいろいろ世
間を騒がせて、「法律どおりにやっているんだから問題はないだろう」という
ような発言をしたときに、結局法の趣旨を尊重していないと。どういう趣旨で
その法律をつくったかという趣旨が尊重されないまま、ただ「法律どおりやっ
ているんだからいいだろう」というようなことを言って批判されたというこ
とがありましたけれども、恐らくここでおっしゃっていることも、この先生がイ
ンターネットに関して、やみくもにルールをつくっても、なぜそういうルール
が必要なのかという背景を考えないと、ただルールだけがひとり歩きしてしま
って形骸化して意味がなくなってしまうのだらうということ、確かにこれは
よく読まないと書いてあることがわからないので難しいかなと思ったのですけ
れども、ここで主張されていることは、結構納得しながら読んだかなというふ
うに思います。

○倉部教育長 ありがとうございます。

○豊島委員 私は、難癖つけているわけではないのです。「ルール化すること
で、その必要性について考えなくなってしまう？」と、「？」をつけているの

ですよ。「しまう」で終わっているわけではなくて、「ルール化することで、その必要性について考えなくなってしまう？」ということに、「あるよね。そうでないの？」という「？」だから、これは別にタイトルが間違っているわけではないのですけれども。パソコンの導入もそうですけれども、何か1つのルールでそれをやっしまえば、それでもう終わりということではなくて、その後もずっと見ていかないと、その効果というのは出ないのだというふうに私は思っているところがあるものですから、ここもそういうことを言っていると。ルールをつくっただけで満足しがちな風潮に対して警鐘を鳴らす機会ともなったのだということで、この講演はよかったのだと私は思っているのです。そういう意味で申し上げたのですけれども。ただ、タイトルのつけ方は、「？」は目立たないので、どうだろうということです。以上です。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいでしょうか。

○豊島委員 はい。

○倉部教育長 ありがとうございます。

ほかに教育全般について御意見なり、御質疑はありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 以上で平成29年第1回定例教育委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時13分閉会